

# かくだ市議会だより



## 第411回定例会

- 質疑・討論 ..... 2～3
- 議案審議結果 ..... 3
- 一般質問 ..... 4～11

## 角田市議会から

- パブリックコメントの結果 ..... 11
- 議会日誌 ..... 11
- 凍霜害の現地調査 ..... 12
- 令和2年度  
政務活動費収支報告 ..... 12

## 【今号の表紙】『夏の朝』

お盆も過ぎ残暑が予想される朝、早々と田んぼの寄せ刈りを始める農家の方が印象的でした。

《撮影》角田市角田 石原 三雄 さん

撮影日：2020年8月20日

場 所：北郷地区

### 表紙写真・イラスト等募集しています

詳細は角田市ウェブサイト内「かくだ市議会だより表紙写真・イラスト等募集」をご覧ください。



第411回 6月定例会

第411回定例会は6月11日から29日までの19日間の会期で開かれました。

一般質問では13人の議員が市政全般にわたり論戦を繰り広げました。

市長から提案のあった条例の改正、補正予算の議案18件を原案のとおり可決し、固定資産評価審査委員会委員に係る選任について同意しました。

また、議員提出議案が3件提出され、審議の結果、原案のとおり可決しました。

一般・特別会計補正予算一覧 (単位:千円)

Table with 3 columns: 会計区分, 補正額(6月), 補正後の額. Rows include 一般会計 and 特別会計 (介護保険事業).

一般会計の主な補正予算項目

Table with 3 columns: 項目, 補正額. Rows include 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金, 子育て世帯生活支援特別給付金, etc.

歳出(支出) (単位:千円)

Table with 3 columns: 項目, 補正額. Rows include 阿武隈急行線新型コロナウイルス感染症対応定時定路線運行維持支援金, etc.

議案第39号

角田駅コミュニティプラザ 条例の一部改正

体験型観光を推進するために導入する電動アシスト自転車の使用料を徴収するので、所要の改正を行うもの。

Table with 2 columns: 使用時間, 使用料. Details on usage fees and times.

総務産業常任委員会での質疑

購入台数、金額は。

10台購入し、契約額は103万5,980円。仕様は前かが付き20インチの小径車で内装3段ギアを装備した電動アシスト自転車である。

利用者はヘルメット着用となるのか。

県の自転車安全利用条例を遵守するため、今後、購入予定である。

市は損害賠償保険等に入っているのか。

第二種TSマーク(自転車向け保険で自転車安全整備士が点検確認した自転車に貼付されるもの。)に加入している。

【第二種TSマーク付帯保険の概要】

Table with 3 columns: 被害者見舞金, 障害補償, 賠償責任補償. Details on insurance coverage.

議案第40号

一般会計補正予算(第4号)

みやぎ県南中核病院通院等アクセス実証事業

ルートの考え方を問う。

市民センターを出発後、阿武隈急行線角田駅、ウエルパーク、仙南中央森林組合を経由し、中核病院までの最短ルートで運行する。

通院者の実情にあったルート設定なのか。

実証事業で通院の実情・実態を具体化していく。

1乗車(片道)1,000円とする根拠は。

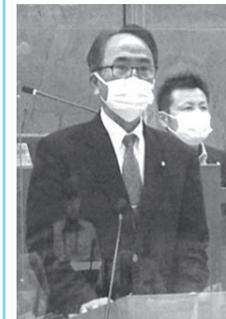
市民センターから中核病院までの平均的な通常タクシー料金を4人(相乗り)で按分している。ただし、コロナ禍のため、ジャンボタクシーで運行予定である。

反対討論... 日下 七郎



今回の補正予算にて、「地方債の前年度未及び前年度末における現在高並びに当該年度末における現在高の見込みに関する調書」の前年度末現在高が、令和2年度角田市一般会計補正予算(第17号)の当該年度末現在高見込額と同額となるべきところを23億円超の減額となっている。これは、災害復旧事業で、地方債の起債ができなかったのか、災害復旧債が過大となっているのか、議決予算と異なる予算の執行となっており、適正な予算の編成を求め、反対する。

賛成討論... 堀田 孝一



今回の主な歳出補正は、通院に対する需要と事業に関する有効性を調査研究する目的として実施する「みやぎ県南中核病院通院等アクセス実証事業」、ワクチン接種に係る「新型コロナウイルス感染症対策事業」、駅前花鳥線に係る「道路改良事業」、非構造部材の点検調査等を実施するための小中学校の「施設整備維持管理事業」等であるが、いずれも市民の足の確保、また、安全・安心を守るために必要、かつ、緊急性を要する事業であることから、賛成する。

議案第36号

やすらぎの家条例の一部改正

平成26年1月より使用を中止している東根やすらぎの家について、使用廃止するため、所要の改正を行うもの。

解体後、普通財産としての利用について地元から要望はあるか。

解体後、普通財産としての利用について地元からの要望のみである。

令和元年東日本台風災害の状況等を鑑み、普通財産から行政財産として避難場所とすることを検討しているか。

地域住民とも協議しながら検討する。

固定資産評価審査委員会の選任

《新任》太田京子 任期 令和3年6月30日、令和4年9月30日

第411回(令和3年6月)定例会

視聴者数 延べ458人

議案審議結果一覧

賛成と反対がわかれたもの

○...賛成 ×...反対 -...退席又は欠席 議長(渡邊 誠)は採決に加わらない。

Table with 10 columns: 提出者, 議案番号, 件名, 審議結果, 各議員の賛否, etc. Lists 3 items with mixed results.

全員が賛成したもの

Table with 10 columns: 提出者, 議案番号, 件名, 審議結果, etc. Lists 15 items, all with unanimous approval.

一般質問とは、角田市のさまざまな課題等に対して、市長や教育長などに対し、事務の執行や将来の考えなどを質問することができます。質問した議員ごとに要約してお知らせします。



未曾有の凍霜害を受けた果樹・野菜等の生産農家支援について

戸村 眞喜夫

議員▼今年4月に氷点下となる最低気温を6日記録したことから、角田市内の農作物に未曾有の凍霜害が発生し、特に果樹部門では収穫皆無の圃場もあると聞いている。現時点での具体的な被害状況はどうか。また、市長は「関係機関と連携して、被害農家の今後の営農意欲を下支えるための支援を検討して

いく」と行政報告したが、具体的にどのような対策を考えているのか。市長▼被害作物数は11種類、被害面積は約15ha、総被害額は6,259万1,000円になり、そのうち、梨の被害が5,198万5,000円、りんごが674万6,000円、梅が64万6,000円である。対策として、梨については県等に蔵王町、みやぎ仙南農業協同組合と連名で、資材費や管理経費等への支援凍霜害防止の機械等の導入費助成や資金借入れの際の利子補給等への支援、農家の経営継続及び産地の維持発展のために必要な対策支援の要望書を提出した。特に被害の大きい梨とりんごの生産者には資材費及び凍霜害対策に係る経費の助成が必要であると考えている。議員▼被害額が小さいとされる作物についても出荷販売が終了しないなど実被害が判明しないので確認してから対策を講じる必要があるのではないかと。市長▼今後、作物の販売期や出荷期終了を見据えて対応を検討していきたい。

議員▼農業経営収入保険の保険料等補助について

制度が2019年1月からスタートしたが、加入者が伸び悩んでいると聞いている(仙南2市7町では208戸の加入者で、うち角田市では、81戸の加入者)。そこで、加入者の促進を図るため、第1に、加入者が青色申告者に限られているために、農業者に白色申告から青色申告に変更してもらうことが必要だが、角田市農業振興公社で、より一層の普及拡大策を打てないか。また、第2に、保険料が高いと思われるので、加入促進のためには保険料の補助を考えるべきではないか、所見を問う。市長▼市内では青色申告の各種相談会等が開催されているが、改めて角田市農業振興公社で、より効果が見込める活動ができないか検討、要請していく。また保険料の補助については宮城県農業共済組合からも収入保険への加入促進に関する施策の検討を求められているので、他市町村の先進事例を参考に検討していく。

議員▼令和元年東日本台風により市では10月11日の降雨から雨量累計404ミリメートル、市内の4割が冠水し、洪水による家屋浸水被害が集中した7地区(小田・裏町地区、左関地区、岡・江尻地区、江尻谷津前地区、野田地区、枝野地区、神次郎地区)を検証し、「角田市防災・減災構想」を策定とあり、枝野区域の雨水対策事業について、枝野区域の水系、水系別の排水機場の流域面積と排水能力を問う。市長▼枝野区域の水系は排水路は丸森町の小斎地区から流れる横堀幹線排水路、大堀幹線排水路及び青木幹線排水路で、河川は桜井川、大谷川、内川が合流する新桜井川が主な水系である。横堀幹線排水路及び桜井川水系には沿尻排水機場(流域面積775ha、計排水量5.2立法メートル/s)、大堀幹線排水路及び青木幹線排水路(流域面積11.5ha、計排水量11.5立法メートル/s)を、大堀幹線排水路及び青木幹線排水路水系には中谷地排水機場(流域面積1,364ha、計画排水量11.98立法メートル/s)を設置し、両排水機場は、阿武隈川水系角田地区土地改良区(以下「改良区」という)の施設である。議員▼沿尻・中谷地排水機場の計画排水量の能力は、農業基準で一昼夜冠水することを前提としている。「角田市防災・減災構想」によると、沿尻排水機場の能力不足により大雨時の流域面積(山林含む)は1,355haとなり、大雨時に絶対量の排水ができない。また、国土交通省「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」は重要な事業となっている。市の内水の排水事業についての協議をしているか。市長▼現在も協議を進めており、これからの進め方について、

議員▼新桜井川を横断している大堀幹線排水路及び青木幹線排水路のサイフォンに設置の除塵機が冠水すると稼働停止となり、サイフォン上流に稲わら等が堆積して、大堀

幹線排水路及び青木幹線排水路の流水量が激減し、枝野地区冠水の水位がさらに上がる要因となっている。現在もサイフォンは設置者の管理となっているので、大型除塵機の設置を求めるところについて問う。市長▼現在、改良区で検討している、大堀(半田川サイフォン上流)、青木(笠松)、長田(長沼)各除塵機について防災・減災事業等の補助事業を活用し、配電盤のかさ上げ機能強化について、県を含めた三者で対策を進めたい。また、大型除塵機の設置については、調査検討を行う。議員▼新桜井川の水位が下がったときに、枝野の内水排水の右岸校前水門及び左岸笠松水門の管理者は確認したのか。市長▼校前水門は令和2年3月に県との打ち合わせで、改良区の管理と確定した。笠松水門の管理者は明確ではなく、今後とも協議を進めていく。



枝野区域の雨水対策事業について

日下 七郎

質問議員(質問順)	質問項目	頁
戸村眞喜夫	未曾有の凍霜害を受けた果樹・野菜等の生産農家支援について 農業経営収入保険の保険料等補助について 枝野区域の雨水対策事業について その他の質問	5
日下七郎	宮城県上工下水一体官民連携運営事業(みやぎ型管理運営方式)に関する事について 第410回定例会一般質問の答弁について 新型コロナウイルス感染症対策に関して その他の質問	5
柄目孝治	角田市景観条例に関して 角田市の財政状況に関して コロナ禍における女性の負担軽減策について 行政区と自治センターの今後のあり方について 第8期角田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画について	6
馬場道晴	コロナ禍における女性の負担軽減策について	6
星隆悦	ウイズコロナ、アフターコロナにおける観光のあり方について 「青少年育成は未来につながる、ひとづくら」について その他の質問	7
菅野マホ	「角田市の果樹農家の未来を守ろう」について 「市民と共に考える『まちづくり』」について	7

質問議員(質問順)	質問項目	頁
小島正	内部牽制組織の確立について その他の質問 道路路線の見直しと整備について	8
相澤邦戸	第8期角田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の実施について 第6期角田市障害福祉計画・第2期角田市障害児福祉計画について	8
菊地利衛	阿武隈川の氾濫から市民の生命財産を守るために 廃校舎の利活用について 不法投棄・ポイ捨てゼロに向けて	9
八島定雄	新型コロナウイルス(COVID-19)感染症対策について その他の質問 最新の角田市「空き家バンク」について	9
堀田孝一	移住・定住、促進の取り組み「関係人口」について	10
武藤広一	角田市「移住・定住施策」の促進について	10
小湊毅	コロナ後の角田市について	11



新型コロナウイルス感染症対策に関して

柄目孝治

議員▼様々な事業の積み重ねと、市民の皆様のご協力・自助努力により、感染状況は比較的安心なレベルを保ってこられたものと感じていますが、ウイルス自体は死滅も消滅もしたわけではなく、むしろ変異を繰り返して感染力が強く、重症化も早い。このようなウイルス蔓延の兆しが再び寄ってきており、新たな恐怖を感じているが、この状況を市はどのように捕まえていくのか問う。

市長▼まん延防止を図るうえで、検査体制の確立は重要と考えている。感染者への対応や検査は、県の機関である保健所の業務であり現在の検査体制は適切と考えている。市独自で幅広く検査を行うことは、現実的に困難である。

議員▼PCR検査、抗原検査それにモニタリング検査の市独自導入で、早い検査で素早く結果を出す、体制の確立が絶対要件だと思いが市長の所見を問う。

市長▼手をこまねくのではなく何らかの方策をとる必要がある。スーパープレッダー対策も含め成功事例があるのだから国や県は指導すべきと思う。対処していく有効手段であり、市長会等でもその有効性を勉強し提案していくこと、また、市や市民、議会が一体感を持ってやることがコロナに打ち勝つことにつながるかと考えている。

議員▼「二つの戦略」を生まない手だてがこの「二つの戦略」につながる。その為

議員▼「二つの戦略」を生まない手だてがこの「二つの戦略」につながる。その為

コロナ禍における女性の負担軽減策について 馬場道晴

議員▼生理用品を防災備蓄品に加え、更新時には必要な方へ無償提供することについて問う。

市長▼本年より防災備蓄品目に加え、市民センター及びウエルパークに備蓄を完了した。保存年限は10年間で、更新の際には関係団体と連携し、無償提供も含め、必要な方に提供したい。

議員▼生理用品の用意が難しい方には公的資金を投じて、円滑な運営にて配布すること等、国や県と連携し必要な方に届く仕組みを講じることにしている。

議員▼学校の施設等で置いておくと、不衛生との指摘も受けており、検討中。他自治体を参考に実施していきたい。

議員▼生理用品の寄附を受け付ける仕組みづくりを検討してはどうか。

行政区と自治センターの今後のあり方について 星隆悦

議員▼区長等役員負担の増、広報紙等配布の負担増の解決策を問う。

市長▼過去の調査で、意見・問題点を踏まえ、費用対効果も考慮しながら検討している。

議員▼区長が行政区運営協議会委員を辞退した場合の取扱いを問う。

市長▼可能な限り協力いただいている。

議員▼自治センターの職員公募制による地元在住職員不在、地域の実情に精通しているか疑問が生じる。市長部局移管に伴う問題を問う。

議員▼区長等役員負担の増、広報紙等配布の負担増の解決策を問う。

市長▼それも一つの考え方であり、今後検討する。

議員▼区長が行政区運営協議会委員を辞退した場合の取扱いを問う。

議員▼区長が行政区運営協議会委員を辞退した場合の取扱いを問う。

市長▼可能な限り協力いただいている。

議員▼自治センターの職員公募制による地元在住職員不在、地域の実情に精通しているか疑問が生じる。市長部局移管に伴う問題を問う。

「青少年育成は未来につながる」びびぐりどろいどろい 菅野マホ

議員▼新型コロナウイルス感染症の影響により学校現場や家庭での子ども達の状況を問う。

市長▼臨時休業を令和2年4月1日から5月31日まで行い、夏季休業期間を昨年年度は24日間、今年度は4日間短縮している。



内部牽制組織の確立について

小島 正

議員▼信頼される職場にしていくなかには、不正の起きにくい仕組みを作ることが不可欠であり、すなわち、自己検証システムの構築を図ることである。そこで、人事配置を確保すると、一時的な兼務職を除き、兼務が多いことに気付くが、事務管理において、主に現金を取り扱う部署の内部牽制がしっかりと確保されているか問う。

市長▼4月の人事異動による兼務職員の状況は、管理職で、部長職が5人、次長職が6人、課長職が1人の計12人となり、いずれも総職員数や経験等に鑑み、適切に配置している。また、本市では、新年度早々に各部署において課内会議等を実施し、新年度の事業計画の確認や個別の事務ごとに正副担当を決めるとともに、窓口等で現金を取り扱う部署は、複数の職員で対応する等、チェック体制を整えている。

おいて、部長と課長が同一である場合、内部牽制が十分に機能していると思えないが、所見を問う。市長▼部長と課長が同一であっても、判断する際の人格は別人である。部長の職にある者でありながら、課長としての責任が求められる場合には課長として事務決裁を行い、その後改めて部長として確認をしている。また、課長の決裁の前に、課長補佐、係長等の他の者が決裁を行う中で事務の誤り等の確認を行っている。決裁以外にも、係員同士が起案に至る経過において相談する等、連携を図りながらチェック体制を構築している。

議員▼アンケート調査で「健康づくり活動や趣味活動への参加希望は高いが参加するための移動手段がない」との結果を受け、「利用者のニーズに合わせた実施体制の整備に取り組み」とあるが、その進捗状況を問う。

のグループの健康づくりの研修や活動拠点に赴き支援を行っている。議員▼第7期計画における評価・検証で、「あまりできなかった」とある生活支援体制整備事業、「未実施」の第2層（自治センター単位）生活支援センターの推進員、地域支え合い推進員、新たな生活支援サービスについて、今後実施していくのか問う。

の整備があり、「保育所等訪問支援サービス」が令和2年9月に設置されたということだが、その実情と課題を問う。市長▼現在要望がないので提供されていない。議員▼設置は国の基本指針であり、活用できるような十分な周知を望むが市長の見解を問う。

第8期角田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画の実施について

相澤 邦戸



市長▼第7期では計画どおりに進まなかった。今年度から第2層生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）を順次配置していく。新たな生活支援サービスは移動手段、ごみ出し、買い物支援等について、今後検討していく。

議員▼介護や看護を行っている家族の方々が孤立しているが、どのような仕組みづくりが求められているか、その計画を問う。市長▼「認知症カフェ」をウエルパークで毎週月曜日に開催し本人、家族、認知症サポーター等で交流し家族の介護負担の軽減を図っている。

議員▼前期計画の中に「児童発達支援センター」の設置は子ども豊かな教育のため必要と認識しているが、前期では設置できなかった。その理由と、今後の設置の見込みを問う。

市長▼市単独での設置は困難と判断した。今後は仙南圏域で令和5年度までに設置できるよう検討していく。

議員▼阿武隈川がシミュレーションのように氾濫した場合は避難指示対象人口は最大どの程度か。市長▼例えば氾濫場所が枝野地区内の場合の対象は枝野・藤尾地区で約39,000人、隈西地区の場合約2万2,900人である。

避難所で1万2,500人になる。議員▼洪水氾濫により木造家屋倒壊のおそれのある区域の世帯数と人口はどの程度か。市長▼約19,000世帯、48,000人ほどである。

市長▼現状における最大のリスクを周知し、認識して貰うことが重要である。議員▼川崎町では、3年間待っても地域からの意見が無く一般公募に踏み切った。丸森町では、廃校が決まった段階から活用を検討する組織を設けた。2町とも廃校に活用した4校を民間等で活用している。



新型コロナウイルス（COVID-19）感染症対策について

八島 定雄

議員▼接種順位別、接種対象者の接種のタイムスケジュール（接種完了時期はいつか）について問う。市長▼1番目が医療従事者等、2番目が高齢者、3番目が基礎疾患を有する方、高齢者施設等の従事者、4番目がそれ以外の方。高齢者は7月末までの完了を目指し、64歳以下の方は、ニーズ把握のための意向調査をし、集計作業中。7月下旬から64歳以下の接種を開始予定で、10月末までの終了を目指す。

はあがあるか。市長▼6月19日現在、予防接種後、副反応疑いの報告事例は11件で、唇のしびれ、倦怠感、ほてり、発熱、じん麻疹などの症状がある。議員▼未接種者に対し、接種を促すような手立てや考えはあるか。

阿武隈川の氾濫から市民の生命財産を守るために

菊地利衛



議員▼浸水深表示に対して「どう行動すれば良いのか分からない」「これでは住んでいられない」と等の意見が届いているがどうか。市長▼そのような声があることを理解した。議員▼防災マップ、浸水深表示はインパクトが大きく、角田市のイメージを悪くしている。不安を取り除くためにソフト面として「避難誘導のあり方」や「情報が正しく市民に伝わること」を重視した内容に見直すべきだ。

議員▼川崎町では、3年間待っても地域からの意見が無く一般公募に踏み切った。丸森町では、廃校が決まった段階から活用を検討する組織を設けた。2町とも廃校に活用した4校を民間等で活用している。議員▼会派一心が行ったアンケート調査の結果から活用を限定せず公募すべき」という市民の意見が多く、「雇用を増やす」「市の財政に負担をかけるな」との自由意見も目立った。市長▼参考にしたいので資料を提供願いたい。

議員▼接種順位別、接種対象者の接種のタイムスケジュール（接種完了時期はいつか）について問う。市長▼1番目が医療従事者等、2番目が高齢者、3番目が基礎疾患を有する方、高齢者施設等の従事者、4番目がそれ以外の方。高齢者は7月末までの完了を目指し、64歳以下の方は、ニーズ把握のための意向調査をし、集計作業中。7月下旬から64歳以下の接種を開始予定で、10月末までの終了を目指す。

議員▼接種率の最終目標をどのように設定しているのか。市長▼今後進める64歳以下の接種について、高齢者と同程度の8割以上を目指す。議員▼現時点で、15歳以下、12歳以上の子どもへの接種をどのように考えているのか。

議員▼市民への接種勧奨情報提供（ワクチンの有効性や安全性など、ワクチン接種に関する正確な情報の周知、最新の接種率の状況、市民からの接種への疑問等へのQ&A）、市民の立場に寄り添った相談受付をどのようにしていくのか。市長▼「広報かくだ」等に継続的に掲載するなど、広く周知し、市民からの相談にはコールセンター、ワクチン接種推進室職員が丁寧に対応していく。



移住・定住、促進の取り組み「関係人口」について

堀田 孝一

議員▼移住・定住の取り組みは、いろいろ工夫されているもの、人口減少の抑制は厳しい状況と感じているが、所見を問う。市長▼いろいろな形で実績は上がってきていると思っているが、人口減少に対しての効果は少ないと思っている。今回、結婚新生活支援事業を行っているが、今後、精査しながら継続していきたい。議員▼人口減少・高齢化が深刻な本市において、関係人口という地域外の人材が地域づくりの新たな担い手、後継者として期待されると考えるが、所見を問う。市長▼地域外の人々が地域と関わりを持つことで、住んでいけると分らない地域の良さや欠点に気づき、客観的な観点から新たなアイデアを生み出すため、関係人口は地域活性化に期待ができる。議員▼地方暮らしに興味を持たれる方が非常に多いが、仕事や日常生活における交通の利便性を重

視する方が多く、思いはあるが、移住はハードルが高いと言えらる。そこで、角田のファンを増やすことが必要であると考えられる。市長▼角田市の存在から始まり、知っていただきさらには関わっていただきながらファンになっていただく、観光での訪問ということだけではなく、さらに一歩踏み込んだ関係をつくる必要がある。議員▼埼玉県越生町ではふるさと納税者にふるさと住民票を交付し、イベントの入場料を無料にし、町内施設の使用料を町民と同額にする「ふるさと住民票」事業を行っている。また、秋田県鹿角市では、関係人口増加の取り組みとして「鹿角家」事業を行っている。地域の困り事をさらけ出し、家族の方々に手伝ってもらう。例えば、リンゴの収穫時に人が足りない困り事を家族に発信し、興味があれば来てもらえる

議員▼自治体と連携して移住を支援するNPO法人「ふるさと回帰支援センター」(以下「センター」という。)(東京)の2020年の窓口相談者が選んだ都道府県別移住希望地ランキングで、宮城が5位と前年17位から大きく順位を上げたこと報道された。コロナ禍の影響で地方移住に注目が集まる中、首都圏からの近さ

や就職先が多いことへの期待が過去最高に押し上げた。本市もセンターの会員だが、これまでのセンターでのセミナー等の開催実績と今後の予定を問う。市長▼平成30年度は、みやぎ移住フェア等3回、令和元年度は、地域おこし協力隊募集セミナー、東北U・ターン大相談会等8回、令和2年度は、コロナ禍のためオンラインによる移住フェアを2回開催。令和3年度も、オンラインによる移住フェアを2回開催予定。議員▼反響はあったか。市長▼相談はあったが移住までは至っていない。協力隊に関しては2人の実績があった。議員▼本年5月1日から、角田市の魅力盛りだくさんPR動画を、角田市公式YouTubeで公開している。3種類の動画があり、市の魅力が十分に伝わり、ユニークに紹介されている。現時点での、閲覧人数と反響は。市長▼6月16日現在で、「角田の5つのめぐみ」がシヨートバージョン507回、ロングバージョン565回、「先輩移住者」に聞く宮城県角田市の魅力」がシヨートバージョン444回、ロングバージョン822回、「宇宙人と行く角田VRツアー」が463回閲覧された。反響は、公開前と

比べて、週に1、2件程度、相談は増えた。議員▼PR動画を利用し、センターを含めて、県との連携が重要だと思うが、市長の所見を問う。市長▼市のホームページや広報かくだへの掲載、JAXA角田宇宙センター新規採用職員研修会での使用、各種事業の際に運行するシャトルバス等での配信、また、首都圏へのSNS広告や移住相談会での使用等、活用を幅を広げたい。センターや県との連携も図って行く。議員▼センターのホームページに、「東松島市オンライン移住相談を始めました」とあり、ZOOMを利用したオンライン個別移住相談で、移住者が「お仕事のことで、住まいのこと、気候のこと等々」気軽に相談に応じている。本市でも始めてみてはどうか。市長▼現在、電話での問い合わせ対応はある。移住者の協力が得られれば、今後、体制整備を検討したい。議員▼センターの最大限利用、空き家バンク制度見直し、使い勝手のいい補助金制度の充実が必要だ。市長▼センターとの関わりを再確認し、各種支援制度の見直しを含めて検討したい。

角田市「移住・定住施策」の促進について

武藤 広一



議員▼議案基本条例第9条(議会報告会及び一般会議)の一部改正に関する意見(パブリックコメント)の結果について

市民の皆様からご意見を募集した結果、4人の方よりご意見(4件)をいただきました。ご意見及び市議会としての考え方を左表のとおり公表します。貴重なご意見をいただき、深く感謝しあげます。



コロナ後の角田市について

小湊 毅

議員▼コロナ禍の状況が1年半以上経過し、生活様式が一変した。これを機に、様々なことを見直すべきではないかと考えている。学校関連については、ある先生から、行事等も減り来賓対応も無くなり、「コロナ前より生徒と向き合う時間が取れるようになった」と聞いた。今後の学校の統廃合を併せて考えれば、残す行事・規模・廃止する行事等を検討するべきではないか。教育長▼教育方法や教育環境は大きく変わろうとしており、これまで当たり前とできてきたことが見直されていく。改革の視点は、児童生徒の視点に絞り込まれ、検証されてきている。統合の準備委員会、専門部会等で協議頂き、学校の先生・地域の方々も含めて、地域にとって学校はどのような今後変わっていくべきなのか御意見を頂きながら、進めている。

議員▼地域の各種団体について、各地域には、様々な数多くあり、コロナ禍で活動が中止・縮小された必要なものもそうでないものがより明らかになってきたと考える。この機会に、改めて各種団体の廃止を含めた統廃合等を検討し、実行に移していくべきではないか。市長▼これまでも各種団体等の見直しは実施してきた。第5次行財政集中改革プランにおいても、各種団体等の役割が重複していないか、時代に見合ったものなのか等を見極め、統廃合の観点から見直しを行うことになっている。地域住民や構成員等の意見を聞きながら、目的が重複している

ご意見	市議会としての考え方
改正は反対。議論が深まらない理由は、議会報告会の設定(時間・場所等)に問題があるのではないかと。議員の熱意ある行動に期待する。	議会報告会を開催しないための改正ではなく、いつでも柔軟に、市民の要望に応じて又は議員の提案で開催できるようにする。ための改正です。開催時間や場所の設定等、各年代層が参加できる工夫を行うつもりです。
市民の立場にたつて、議会の使命を遂行すべきである。	肝に銘じ、市民目線で市政に反映して参ります。
議会報告会には各議員発言の場であるから、改正により、議員発言の機会が相対的に減る。議員の見識を高める努力が必要と考える。	改正により、まちづくりについて議員の見識をより一層高めてまいります。

※詳細は市のホームページに公開しております。  
※6月定例会で改正案が議員提出議案として提出され、全会一致で可決されました。

議会日誌
14日 議員協議会
4月
1日 会派代表会議
4日 第411回定例会招集告示
8日 議員協議会
11日 議会運営委員会
15日 議会運営委員会
22日 会派代表者会議
23日 総務産業常任委員会
24日 議会運営委員会
25日 本会議(第3日)
28日 議員協議会
28日 本会議(第4日)
29日 議会運営委員会
29日 本会議(5日目)
29日 議会運営委員会
16日 議会だより編集会議
7月
1日 議会だより編集会議
5月
1日 かくだ市議会だより212号発行
13日 会派代表者会議
20日 みやぎ県南中核病院企業団議会臨時会
21日 会派代表者会議
6月
1日 会派代表会議
4日 第411回定例会招集告示
8日 議員協議会
11日 議会運営委員会
15日 議会運営委員会
22日 会派代表者会議
23日 総務産業常任委員会
24日 議会運営委員会
25日 本会議(第3日)
28日 議員協議会
28日 本会議(第4日)
29日 議会運営委員会
29日 本会議(5日目)
29日 議会運営委員会
16日 議会だより編集会議

